

N67-10

登録番号：第834号

登録年月日：昭和60年7月6日

登録者：沖縄県農業試験場（沖縄県

那覇市首里山崎山町4-222） 来

育成者：小那覇安優 池宮秀和

比嘉正和 仲宗根福則

宮里 勉 宮城恒夫

高江洲和子 山田重信

渡慶次賀敬

歴：米国ハワイ州から導入した

在来の品種群の中から分系

・選抜したもの

特 性

■栽培特性

形態的にはスムースカイエン「ハワイ系」に似ているが、葉長がやや長く、草本は「三菱系」に比較してやや大きく、葉は斜立し草姿は良好で、葉色は濃緑色をしている。葉のとげは少なく先端の一部にあり、密度は疎で栽培容易である。えい芽、いぼおよびいぼ芽等の不要芽は「三菱系」に比べ著しく少なく、「ハワイ系」より少ないため省力栽培できる。吸芽発生数は「ハワイ系」と同程度であり、肥料吸収性が良く草勢が旺盛で、収量は「ハワイ系」に比べ10a当たり14%増収する。莖長、莖の太さ、果柄長、果柄の太さはともに中位である。葉裏のりん粉は「ハワイ系」と差がない。

■果実特性

果実の長さは長く、果径、果形指数ともに大であり、果形はやや円錐形であるが、除冠すると円筒形になる。小果数は多く、小果の大きさは中、突出度は平で、平均果実重が「ハワイ系」に比べ大きい。果皮の色は黄橙色で果皮の厚さ、果肉の厚さ、果芯の太さともに中位である。果肉色は淡黄色で、果汁は中、甘味、酸味、香気ともに中位で、果肉のしまりも中である。出蕾期および収穫期はともに中位で「三菱系」および「ハワイ系」と同時期、「TH-56」より遅い。

■病害虫抵抗性

花樟病抵抗性が強く、裂果発生およびバイン萎凋病抵抗性ともに中位である。

■地域適応性

1989年度における沖縄県のバインアップル栽培面積は、本島北部および八重山地域あわせて1,670haであり、栽培品種も「ハワイ系」中心で「三菱系」も極くわずかに残っているが、漸次「N67-10」に更新されてきている。現在「N67-10」の種苗の大量増殖が行なわれており、1996年度までには「ハワイ系」および「三菱系」とも「N67-10」に更新される予定である。

(高原利雄)